

の遺跡を見出した時は、一方石塊は受身で僅かに抵抗して居るに引替へて、樹木は頑強に攻勢を示して、互に相降らず戦つて居たが、やがて、自然の盲目的な力は、遠からず人間の業蹟を破壊し去らうとする勢にあつたのである。

千九百年、余が親しく見得た事情は、かくの如きものであつたが、——その後、アンコール・トムに於けるバイヨンの事業で、フランスが新しく、デュフォー Dufour 及びカルポー Carpeaux 兩氏を派遣したのを他にしては、——千九百七年、暹佛條約で、上部ラオス Haut-Laos 地方の國境改定と交換に、カンボヂアが其舊都を回復した時にも、其事情は同様であつたのである。當時、余は猶ほ印度支那に居た事として、其の時の我々の感じを述べて見れば、勿論欣喜雀躍の情が主であつた事はいふまでもなく、カンボヂアが其失つた二州、シエム・レアプ Siem-Réap とバタンバン Battambang とを回復した事は、恰も、カンボヂアのアルザスとローレーヌとの二州を母國に回收した様であつたカンボヂア人の喜を分つた事であり、之までに、フランスから相次いで多くの派遣を